広報 まさき ❖ 2017-3

行ってこーわい 会ってこーわい

「俳人 中村草田男寓居跡」

町内にある寓居（住まい）跡 松前町を懐かしむ句を多数残す

No. 102

1 松前町漁業協同組合の東にある寓居跡＝浜＝と郷田さん。側面には季節風「貝寄風」が吹く春、帰郷したときに詠んだ「貝寄風に 乗りて帰郷の 船迅し」の句がある　2 中川原のひょこたん池の句碑「田を植える しづかな音に 出でにけり」

学校などで一度は耳にしたことがある俳人「中村草田男」。昭和初期の俳句界に大きな影響を与えた草田男が、松前町にゆかりがあることを知っていますか。

明治34（1904）年、中国福建省で生まれた草田男は3歳で帰国した直後の2年間、松前港近くで母と一緒に生活しているのです。そこで過ごしたときの風景を「我が最初の記憶圖（図）」と話している草田男は、愛媛に帰郷するたびに松前町を訪れています。

「屋敷にあった百日紅（さるすべり）や海辺など、松前町での生活を懐かしんだ句を多く詠んでいます」と話すのは、郷田喜久江さん＝恵久美＝。草田男が創刊した「萬緑」の愛媛支部で、支部誌「海香」を編集しています。その中で、全国の萬緑の関係者と話す機会も多い郷田さんは、「松前町の風景を大事にしていたということをよく聞きます。帰郷して松前町に来たとき、干潟で遊んでいたことなどを話してくれたそうです」と海辺を見ながらほほ笑みます。

「俳句界では有名でも、松前町では、ゆかりがあったことを知らない人が多いと思います。海辺の風景でも、その風景の句が詠まれていたことを知っていると見方も変わってきます。もっと多くの人に草田男と松前町のことを知ってほしい」と話す郷田さん。皆さんも、町内にある句碑や詠まれた風景を楽しむため、出掛けてみませんか。

▼編集後記

「若い人はスマホで遊ぶから、こんな遊びは知らないでしょう」

輪になって手作りのお手玉を持ち、「あんたがさどこさ」を歌いながら「さ」の言葉で隣の人にお手玉を回す…。頭では分かるけれど、上手くいかずみんなで笑って―。

小富士松クラブの取材は、考え、笑い合った取材となりました。子どもから大人まで、こんな時間がもっと共有できれば、町がもっと元気になれるのかもしれませんね。（久保）

先日、県内自治体職員の交流会へ。初対面でしたが、同年代が多かったため、自然と打ち解けられました。

同じ悩みや課題を共有したり、別の視点からの意見を聞いたりことで、職場は違っても「支え合っているんだな」と感じました。

新しい場に一歩踏み出せば、活動の場や考え方が広がり、自分の意識が変わるかもしれません。健康のためにもみんなで支え合っていきませんか。（蔭谷）

Proud! Japan
東日本大震災の復興を支援しよう

サンタ
アイスクリーム
アイス サンタ 検索
広告

有料広告募集中

掲載場所	裏表紙の最下段
広告料	20,000円／枠（1カ月）
大きさ	縦40ミリ×横60ミリ
カラー	フルカラー

問総務課広報情報係 ☎ 985-4132

発　行／松前町
編　集／広報編集委員会
発行日／平成29年3月1日
〒791-3192
愛媛県伊予郡松前町大字筒井631
☎ 089-985-2111(代)

四国・愛媛 恵み、めぐるまち、まさき。
VEGETABLE OIL INK